

2019 年度そだちネットワーク部会活動報告

【目的】様々な障がいや困り感を持っている子ども及び家族の気持ちに寄り添いながら、子どもや家族を支える地域の関係機関の連携体制を構築していくこと

～4つの基本的柱～

- ①子どもの困り感や特性に合わせた支援
- ②家族の気持ちに寄り添う支援（障がい受容の伴走者であること）
- ③関係機関のネットワーク機能の充実
- ④重心・医ケア児とその家族が安心できる地域づくり

【主な活動】

- 部会全体の活動として、5/30（土）発達障がい支援フォーラムの開催をする。「発達障がい児が安心して大人になっていくために」をテーマに信州大学医学部附属病院子どものこころ診療部長の本田秀夫氏を講師として招き、講演会・シンポジウムを予定している。

そだち
ネットワーク
部会

発達障がい
支援フォーラム
実行委員会

柱①WG
子どもの支援

- 担当や機関が変わっても、子どもの情報を残して繋いでいけるシステムの入力フォーマット「就学相談フォロー名簿」の小学校版（小1～小6）、中学校版（小6～中3）の導入のために約2年間続いた検討も6市町村の教育委員会が共通で使用する方向でまとめ、圏域の成果物となって終了。来年度は、話し合いたいテーマを出し合い、決定し、そのテーマについて検討していく。

柱②WG
家族の支援

- “早期から相談の大切さや相談することのメリットを知るため”のリーフレットの作成について、今年度は「子育ては必ずしも育児書やSNSの情報の通りにはいかない。それぞれの家庭に合った子育ての形を考えよう」という切り口から方向性を見直し、現在は「レイアウト」「個性のタイプ」「相談エピソード」についてそれぞれチームに分かれ制作を進めている。来年度中の完成、配布を目指す。

柱③WG
ネットワーク充実

- 教育機関の支援者が、その子の困り感からチームを作る時の相談先が一目で分かるための「支援関係者のための相談マップ」を作成し配布した。更なる修正を加え、わかり易くしたものを来年度も教育機関に配布する。

柱④WG 重心・医ケア
医療的ケア児
課題検討チーム

- 今年度1回目の親の会では、他圏域から医療的ケアのある方のご家族を招き、お子さんの出生から現在の生活に至るまでの様子を伺った。第2回は2/28に実施し、第1回の親の会で話題に上がった看護師さんと理学療法士さんを招き、ケアやポジショニングについての相談にも乗ってもらえる予定。

【今年度の成果と来年度へ向けて】

- 重心・医ケアWGは来年度重心・医ケア部会として多職種で取り組んでいくことが決定した。これまでグループで行ってきた親の会も、来年度からは重心・医ケア部会の柱の一つとして実施していく予定。